

あの天気だった町、人々、

柏崎市立高柳中学校 一年 平沢 賢人

この日、いつもと変わらないう日を過ごし

ていた。母が

「おはんだよ。」

と言った。しかし、この時、町、人々に大も

大な傷が入った。

「ゴッゴッゴッ、パリン。」

大きな揺れが新潟県中越を襲った。十月二十

三日（土）午後五時五十六分、新潟県中越が

発生した。

僕は、揺れを感じるとすぐに机の下にも

ぐりこんだ。棚から物が落ちてきた。僕は目

を閉じた。揺れがおさまるまで一度も目を開

かななかった。揺れがおさまると、僕はゆっく

り目を開けた。あたりは、真暗だった。僕は

すぐに机から出て、懐中電灯を持った。ある

とまた、小さな揺れが起きた。すぐに机の下

に入った。あると僕の体はふるえ始めた。そ

のと、きすでになんか考えたり、はじめて、

のとき、きすでになんか考えたり、はじめて、

しこむ心がいっぱいだった。
僕は、寝ようとした。だが、十分寝ては起き、十分寝ては起き、このくりかえした。この日の夜は、今まで生きていて一番長い夜となった。

朝、目を開けると、いつもの町と違って、た。いつも元気だった町はなかつた。そこにあつたのは、恐怖を感じる町だった。